

1. 潮間帯生物の定着状況 1-1. 調査結果

水面下での ライトランセット調査の状況



調査項目: 工事区域周辺の潮間帯生物観察

調査方法: ライトランセット法を主体とする

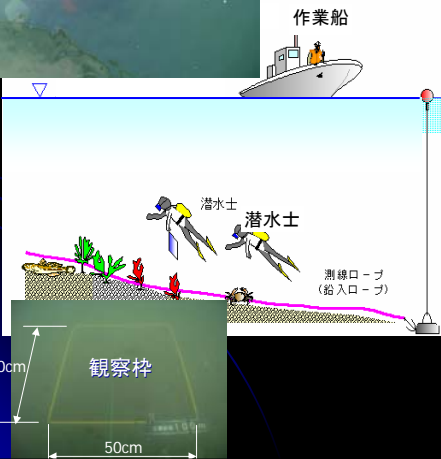
調査日: 施工前 : 平成18年4月1日

施工後約1ヶ月: 平成18年9月21日

施工後約5ヶ月: 平成19年1月22日

施工後約8ヶ月: 平成19年4月17日

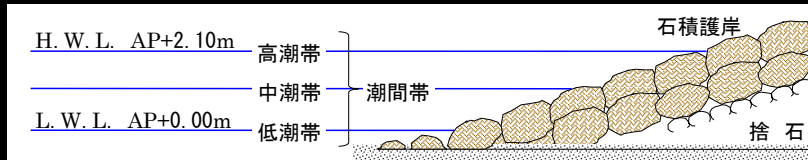
施工後約1年: 平成19年8月27日



水面上で ライトランセット調査の状況



護岸部潮間帯への生物の着生状況 ① 種類数



1工区における施工後の潮間帯動物の種類数比較(ライトランセット法)
種類数/0.25㎡

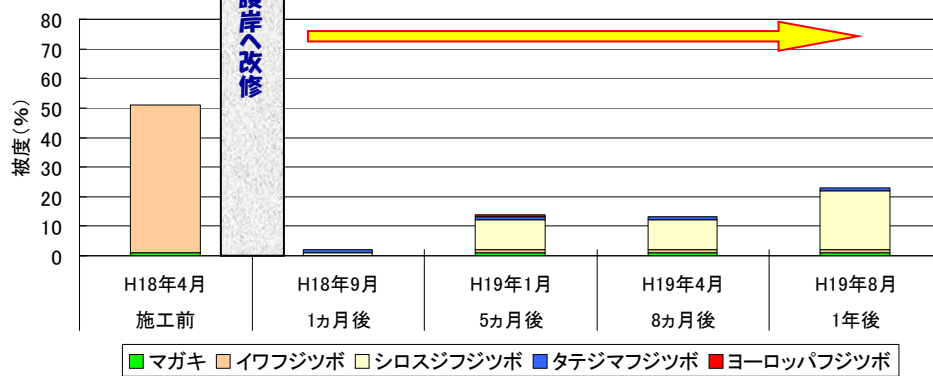
	施工前 春季 H18年3月 (直立護岸)	約1ヶ月後 秋季 H18年9月	約5ヶ月後 冬季 H19年1月	約8ヶ月後 春季 H19年4月	約1年後 夏季 H19年8月
	(石積護岸)				
高潮帯	4	2	5	4	7
中潮帯	3	3	4	6	8
低潮帯	8	7	4	9	11

高潮帯は、フジツボ類を中心に横這いだったが、約1年後にタマキビガイ、アラレタマキビガイ等が再定着。中潮帯、低潮帯は、徐々に種類数が増加。

1工区における潮間帯動物の定着状況(高潮帯)

個体数/m²

タマキビガイ	64	石積護岸へ改修	—	—	—	164
アラレタマキビガイ	12		—	—	—	4
フナムシ	—		—	—	—	8

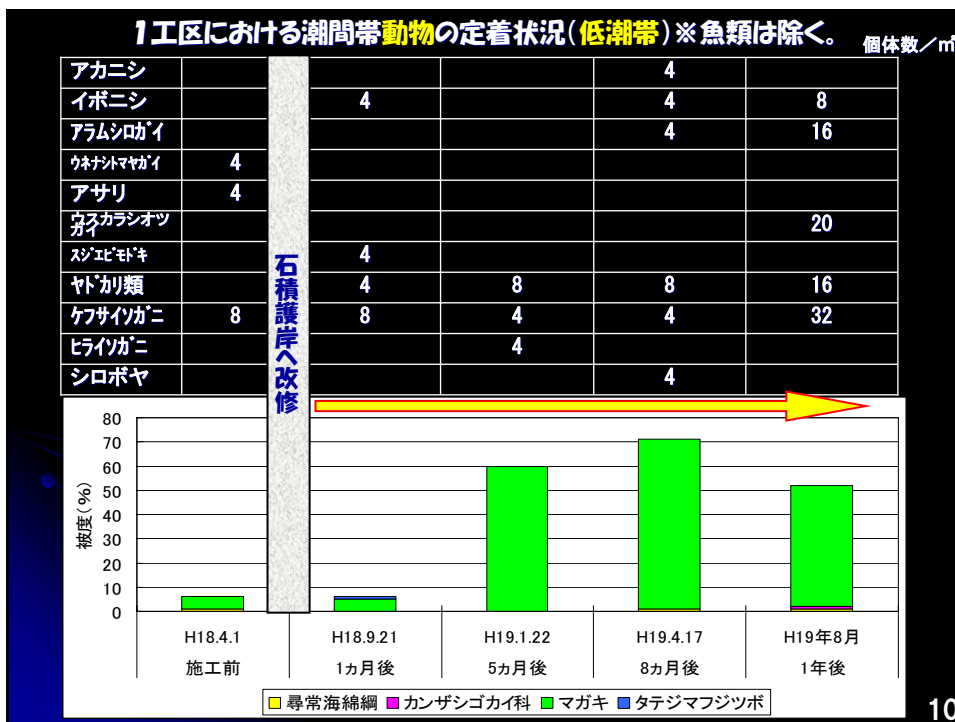
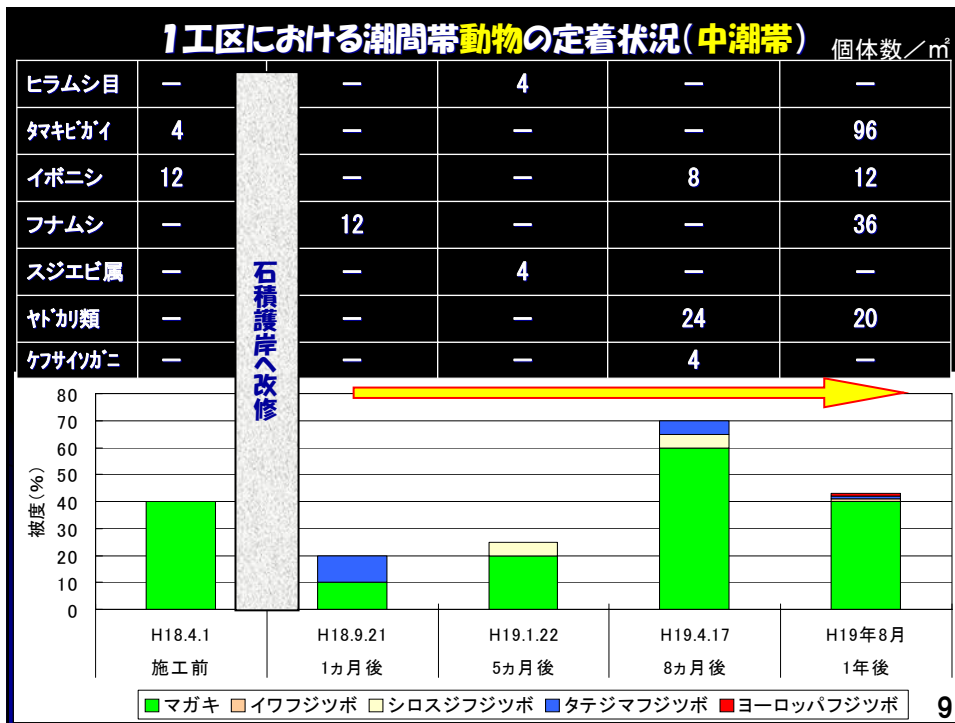


7

再定着が確認されたタマキビガイ(1工区高潮帯:施工後約1年)



8

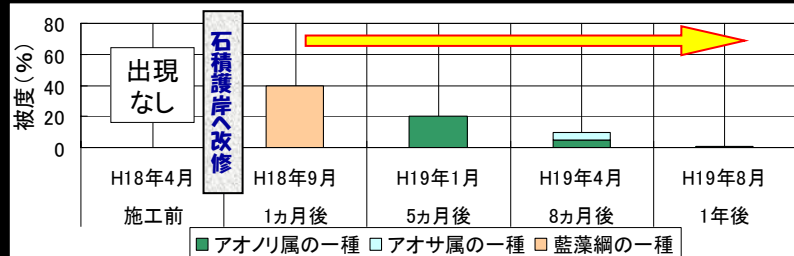


1工区における潮間帯植物の定着状況

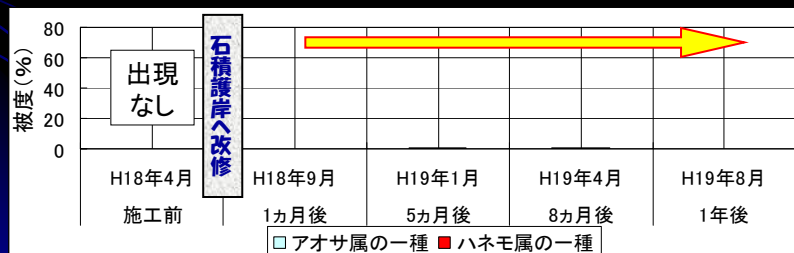
高潮帯

高潮帯は、施工前、施工後とも潮間帯植物はみられない。

中潮帯



低潮帯



11

生物調査時の水質測定結果

のり先(30m付近)

時期	項目 層	水温	塩分	DO	pH
		°C	‰	mg/L	
施工前	H18年3月	12.0	30.6	10.1	8.2
約1ヶ月後	H18年9月	26.0	27.4	5.3	7.6
約5ヶ月後	H19年1月	11.4	31.4	7.1	7.9
約8ヶ月後	H18年4月	14.3	29.9	7.8	8.3
約1年後	H19年8月	31.1	26.1	7.8	7.8

沖合(100m付近)

時期	項目 層	水温		塩分		DO		pH	
		上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
		施工前	H18年3月	11.0	10.9	31.0	31.0	10.5	10.4
約1ヶ月後	H18年9月	24.7	24.7	27.0	28.0	4.5	4.4	7.6	7.6
約5ヶ月後	H19年1月	11.5	11.6	31.0	31.0	6.9	7.0	7.9	7.9
約8ヶ月後	H18年4月	14.2	14.3	30.0	30.0	10.4	10.2	8.6	8.6
約1年後	H19年8月	29.7	29.9	25.8	26.0	7.8	7.7	7.9	7.9

12